

2023・2024年度 業務執行理事を選定

5月24日「定時評議員会」「理事会」がワークピア横浜にて行われ、2023・2024年度業務執行理事は下記のとおり選定され、代表理事（会長）に吉田秀志さんが就任されました。

2023・2024年度 業務執行理事

会 長	吉田 秀志	常任理事	湯川 利之	常任理事	山崎 正俊	常任理事	江藤 安則
副 会 長	松尾 正弘	〃	岡本 克巳	〃	小野 大輔	〃	中村 洋士
	西舘 健吾	〃	小出 敏之	〃	関澤 雅彦		
専務理事	金澤 健敏	〃	中野 賢一	〃	林 弘幸		

会長就任あいさつ

会長 吉田 秀志

神奈川陸上競技協会会長就任にあたり一言ご挨拶を申し上げます。
 橘川眞佐志前会長の輝かしい功績を引き継ぎ、微力ながら新たな課題に向かって努力していく所存です。

平成11年（1999年）に神奈川陸上競技協会副理事長に就任以来、24年間にわたり本協会運営に携わってまいりました。その間、競技力の向上、小学生対象の普及活動、審判員の養成と資質向上への取り組みは一定の成果をあげてまいりました。また、平成25年（2013年）の法人化以降、競技団体としての活動を通して公益性と社会性を担保し、その実効性が確保されてまいりました。このような状況を基盤に今後の取り組みについて述べさせていただきます。

競技力の向上とジュニア競技者の普及育成を一体となって展開していく。小学生・中学生・高校生といった学年制区分ではなく年齢制区分（U13・U16・U18）で強化事業や競技会を実施していきます。その取り組みとして昨年8月からシニア・ジュニア世代が一同に介して「全国都道府県駅伝強化合宿」を実施しています。この強化事業を通して各世代間の連携や意思の疎通、意識の向上を目指しています。今後の強化と普及は、従来の学年制区分ではなくU13・U16・U18の年齢制区分を基盤として切れ目のなく一体となって連携し展開されなければなりません。この対策として年間事業に強化と普及を一体化した事業を設定する取り組みをしていきたいと思っております。競技会としては、神奈川選手権とは別にU13・U16・U18神奈川選手権を試験的に実施してみたいと思っております。

令和5年度文科省・スポーツ庁・教育委員会からの通達で中学生や高校生の部活動指導を地域指導者へ移行する方策が打ち出されました。これにより昨年度から地域指導者の養成指導を目的とした「指導者養成委員会」を立ち上げました。今年度は、その活動の一環として「スタートコーチ講習会」を2回、「ジュニアコーチ養成講習会」1回を実施いたします。指導者養成講習会により学校指導者、地域指導者の更なる資質の向上を目指していきます。

本協会は、毎年各種の競技会を主催・主管しております。ジュニアクラブの記録会からゴールデングランプリ・日本学生個人選手権・関東インカレ・全国小学生交流大会等々、様々な年齢層や競技レベルの競技者を対象に競技運営をしております。このような状況に対応できる競技会運営を目指し、審判講習会の内容を審判技術向上に向け「実践型講習会」などの内容に改革していかねばなりません。

最後に歴代の諸先輩方が築き上げてこられたことを尊重し、情熱と使命感そして先見性をもって神奈川の陸上界をさらに活性化させ発展させるために最後の力をふりしぼって尽力していく所存です。皆様のご指導、ご協力をお願いして就任の挨拶とさせていただきます。



◎橘川前会長より寄稿いただきました。なお、今後も顧問としてご協力いただきます。

県陸協にかかわって

橘川 眞佐志



県陸協との関りは1987年平塚競技場（現レモンガススタジアム）が完成した時から。勤務地が隣であったことが関係しているのではと思っている。就職して12年間、陸上競技から離れていたため新鮮な感覚があった。競技部の一員になってから、登録人数が年々増加している時期で、県記録会が一会場ではこなせなくなってきた。そこで二会場で展開することになり、競技部長の大森先生の指示で県西部地区の競技会を担当することになった。競技会に向けて申し込み、プロ編成を行いながらルールの勉強をした。

大きな転機になったのは、1998年に開催が決まっていた「神奈川県国体」の事前準備のため三國体を視察してからだった。最初の視察では視察の目的もはっきり理解せず、ただ競技会を見学するに過ぎなかった。大会二年前の視察（広島県）では、芳賀先生（理事長）より資格審査・プロ編成に行ってその内容を理解し、身に着けるよう指示されていた。ここでは、視察員というより地元の審判員になりきり、グループに入り数日間作業を行い、国体の事前準備や大会そのものの流れの大まかなところを理解した。寛大な気持ちで許してくれた広島陸協の対応に感謝。幸い競技会場の電子機器など通信機器が横浜と同じものであったのも大会に向けて準備するのには役立った。

私にとって最初の全国規模の大会を競技責任者として迎えることになった。そのために2年前から週三回ほど開催地である横浜市の実行委員会に出向し、行政担当者と資格審査・プロ編成の流れやその周辺にある事柄を確認し、それに必要な人員を審判委員長にお任せして準備をした。並行して審判員の研修（部署別と全体会）を数回行い、先輩の審判員に色々要求をして、生意気な奴と思われたことだと感じている。それでも大会の成功に向けて協力体制が整い大会が終わった。審判員の皆さんに感謝しかない。

一段落と思っていたところ、次年度から「ジュニアオリンピック」「スーパー陸上」「全国小学生交流大会」「日本選手権」と全国大会や国際大会が本県で開催されるようになり、主管陸協として資格審査・プロ編成、競技日程、競技注意事項などを作成、実施をした。各大会ともいろいろ課題があり、陸連と協議相談してまとめ上げた。特に「ジュニアオリンピック」の参加資格、種目については数度の変更を重ねた。途中から加わった日本選手権リレーについては、競技日程が過密なため参加条件を27名以内で行ってほしいと要望し実現した。2003年の日本選手権は、200mの20秒03の日本新記録が衝撃的であった。翌日の全てのスポーツ紙の一面はこの記事であった。また、2008年の日本選手権は、NHKのゴールデントーンで生中継されることになり、天候には恵まれなかったが、白熱の長距離が視聴者に感動を与えたと関係者から聞いている。視聴率もその時間帯のトップという情報も流された。このようなことを見聞きすると、疲れはとれる。

競技会は競技者、観客、審判員によって成り立つ。主役は競技者、それを盛り立てるのが観客、審判員は黒子に徹し競技者が気持ちよくリラックスして自己記録更新を目指して集中することが出来るように活動することと思っている。この思いを理解してくれたあるパートが「競技者の為に出来ること」という冊子を作成した。その内容は審判員として、競技場別の対応・準備、大会規模による対応、天候による準備の方法、服装、セッティングの手順等微に入り細に入り記述したマニュアルを作成してくれた。これは競技者の身になっての行動を示したもので、大変有難かった。

大会ではいつもフィニッシュ近くにおいて競技の流れや審判員の動きを気にしながら見ていた。その時感じたことを次回の大会に生かすために。

このように競技の責任者として2005年まで行ってきた。その後、理事長、会長職を務めた。この間、審判と競技、普及と強化の統合、財団への移行などの将来に向けての改革に着手した。これらのことは私がというのではなく、各特別委員会に委嘱された委員の絶大なる熱意によって成し遂げることが出来たと思っている。その点で感謝しかない。

課題は審判員の高齢化、出席率の問題は待ったなし。加えて常に審判員の資質向上に向けた対策。安定した審判技術は安心した競技会には欠かせない。専門委員会の委員の皆様は陸協の活動が他人事ではなく、わが身のこととして新しい視点から行動してほしいと願っている。

◎西館新副会長のごあいさつ

副会長就任に当たって

副会長 西館 健吾



この度、副会長を拝命しました、西館 健吾と申します。吉田新会長の下、関係者各位のご協力を頂きながら精一杯務めさせていただきたいと思っておりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

令和5年度も県内各地で多くの競技会が開始されていますが、大きな問題が無く開催できていますこと、改めて審判員及び選手の皆様のご理解とご協力に感謝申し上げます。

本協会では、国民スポーツ大会、都道府県対抗駅伝大会等、全国レベルの大会で活躍する選手の強化・育成、またジュニア選手の育成等、強化・普及を進める中で、その成果を収めてきました。今後も、効果的な強化・普及に力を注ぎ、支援していく体制を継続していくことが必要と感じています。そのためには、本協会の運営の柱となる各種委員会がそれぞれの諸活動の充実した運営を継続しつつ、これからの課題について意見を深め、より良い方向に改善が図られるよう、取り組んでいかなければならないと思います。「強い、神奈川をめざす」をモットーに、そして神奈川陸上競技協会のさらなる発展のためには、会員の皆様、競技会を運営していただいている役員、審判員そして指導者の皆さんの支援が不可欠であります。

今後とも、各郡市陸協を始め、関係機関、団体のすべての皆様と共に、陸上競技の振興と神奈川陸上競技協会の運営の充実と向上に微力ながら努めて参りたいと思っております。ご支援、ご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

◎金澤新専務理事のごあいさつ

専務理事に就任して

専務理事 金澤 健敏



神奈川陸上競技協会専務理事就任にあたり、ご挨拶を申し上げます。

本協会は2013年に、河野太郎会長、吉田秀志専務理事のもと、一般財団法人化され、それまでの任意団体であった時以上に、協会運営に透明性や公益性、社会性といったことが求められるようになりました。その後、2015年に橘川眞佐志さんが会長となり、この度、5期10年という永きに渡り専務理事としてご尽力いただいた吉田秀志さんが会長に就任されました。

この10年間で、それ以前の活動を更に発展させていくことに加え、法人としての新たな業務や責任を果たし、新体制を構築し、協会運営を軌道に乗せられた諸先輩方の功績に、ここに改めて敬意を表したいと思います。これから、様々な方々が築き上げられたことを引継ぎながら、新たに求められる課題に対応できるよう努力していく所存です。

今後の課題として、協会が効率的に機能する様、組織を見直すことが挙げられます。新たな理事は、女性や学識経験者を意識的に登用することができました。評議員の定数を見直していくことなどの検討が継続中ではありますが、本協会の実情と併せ、外部からの考え方も参考にしながら適正な形を探っていきたいと思っております。また、競技者だけでなく、その関係者や社会の考え方から、競技会や協会の運営に求められていることに応じていくこと、そして、異常気象下での競技会運営でいかに安全を保つか、障害者スポーツの在り方など、今日的な課題が多くある中で、従来の経験から学んだことを大切にしながらも、前例にとらわれすぎることなく、目の前のことに適正に対応することが重要であると感じています。

更には、陸上競技の取り組み方として、活動母体の地域移行という大きな変革も迫っています。それに伴い、これまで協会の柱として、「陸上競技の普及・振興」、「競技力の向上」、「審判員の育成」といった3つを掲げてきましたが、指導者養成委員会を立ち上げ「指導者の育成」という点も柱に加えて、積極的に活動していきたいと考えています。

本協会の90周年が目前です。小学生から国際規模まで、幅広く、そして注目度の高い競技会を毎年適切に運営し続け、コロナ禍という大変な時期も、みなさまと乗り切れた強い協会です。そういう思いを共有し、100周年に向けたステップとなる周年となるよう、準備をしていきたいと思っております。

日本の陸上競技界は、世界で活躍する選手が大変多くなっています。その中には神奈川の選手が大勢います。近年はルールや競技会運営自体も世界レベルを求められています。神奈川陸上界がこれまで培ってきたものを尊重しながらも、新しい世界レベルの流れに乗っていけるように、関係のみなさまのお力をお借りできればと思います。

引き続きのご指導、ご協力をお願いして就任の挨拶とさせていただきます。

◎ JAAF公認スタートコーチ講習会（神奈川会場①）実施について

指導者養成委員会：委員長 松尾 正弘

1. 日 時：2023年7月8日（土） 9：00～18：00
2. 場 所：小田原城山陸上競技場及び会議室
3. 受講者：26名（男：18名・女：8名）



沼澤 秀雄（陸連代表：指導者養成副委員長）



講義「競技者育成の考え方」
陸連（泉水講師）



講義「指導者の役割と責任」
神陸（松尾講師）



講義「指導のプロセス」
神陸（松尾講師）



実技「走・跳・投」



神陸（小野講師・武富講師）

受講者は全員出席し、講義と実技講習に意欲的に取り組むことが出来ました。特にⅡ「指導者の役割と責任」の講義内容と「実技講習」では、普段の指導内容と指導方法を振り返りながら熱心に取り組む姿勢が感じ取れました。

次回（神奈川会場②）が10月14日（土）に実施予定しております。

今後も皆様方のご協力をお願いします。

◎ 都市陸協だより（第16回 南足柄市陸上競技協会）

<南足柄市陸上競技協会について>

南足柄市は神奈川県最西に位置し、人口4万人に満たない市です。昭和47年の南足柄市制施行に伴い、南足柄市陸上競技協会は足柄上郡陸協さんから分かれ、昭和48年に設立されました。

足柄上地区選手権・足柄上南中学校陸上・足柄上地区一周駅伝・川本杯争奪チームレース・審判員講習会等は足柄上郡陸協さんと共催で運営しています。

県西地区（小田原市・足柄上郡・足柄下郡・南足柄市）には公認陸上競技場は小田原城山競技場の一箇所であり、県西地区選手権・小田原地区選手権・小田原地区記録会・小田原地区小学生記録会等は小田原市陸協さんを中心に競技会運営を共催させて頂いております。これから更に4つの陸協の協力体制で県西地区の陸上競技を盛り上げて行きましょう。

県下で登録数が少ない陸協ですが、県陸協主催大会へ審判として積極的に出席しています。南足柄市での市制記念駅伝の開催、城山競技場での県西地区小学生記録会を近隣の小学生クラブを招き、普及のために開催しています。地元で開催されている「天狗のこみちマラソン」や「いこ丸パークトレイルランニング大会」の運営にも携わっています。

2020東京オリンピック長距離に出場の松枝博輝さん、箱根駅伝出場の石部夏希さんは地元の小学生陸上の明神クラブ出身で活躍され、陸協として応援しています。

これからも常任理事メンバーを中心に陸上競技の発展に貢献して参ります。

今後も県陸協、近隣陸協の皆様のご指導・ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い致します。



（文責：南足柄市陸上競技協会会長 三橋正充）

※次回の「都市陸協だより」は座間市陸上競技協会にお願いします。